

「日本型第4次ものづくり産業革命」吉川良三編著、日韓IT経営協会著

このたび、日韓IT経営協会（JKIT）では日刊工業新聞社より「日本型第4次ものづくり産業革命」を吉川会長の監修のもと出版いたしました。私たちの研究会では「失われた20年（人によっては30年ともいう）」と呼ばれるようになって、ある意味では閉塞感に陥っているわが国が再び輝きを取り戻すにはどうしたらよいかという議論の中でいろいろな意見がありましたが、やはりわが国が永年培ってきた「ものづくり」を活性化させることが基本ではないかと考えました。その際、従来の日本が得意としてきた性能の良さ、品質の高さなどいわゆる「つくり」の部分から離れて、一度原点にかえって「ものづくり」のあり方を、最近急激に発展してきたICTを活用した日本独自の新しいビジネスの種はないかという視点で2年間議論してまいりました。その結果、ドイツが進めている「インダストリー4.0」や米国のGEが進めている「インダストリアル・インターネット」のコンセプトの中で、IoTに視点を当て議論してきました。

また、IoTを活用するなら、いままでの生活を主体とした「衣食住（宅）」に関するコモディティ化された製品開発分野より、わが国が現在直面している「少子高齢化」やアベノミクスが取り組んでいる成長戦略の中の「地方創生」、各分野の「規制緩和」の中で、何か新しいビジネスのシーズが見いだせないかと研究を重ねてきました。その研究の過程でIoTとはいったいどのようなものなのか、それを支える技術は何なのか、またそれらの技術はどのように発展してきたのか、その技術は日本が得意としているのかなど、幅広い視野から議論してきました。

この過程で、私たち独自の考え方として「6CON」「ネオダマ」「新医職住（民）」「BCGトライアングル」などの造語を産み出してきました。これらのコンセプトをうまく活かすことができれば、韓国や中国にはない新しいビジネスが生まれ、それが閉塞感から脱却し、再び日本に輝きを取り戻す「秘伝のタレ」になるのではないかという思いで、この出版に取り組みました。

ぜひ、ご一読いただき忌憚のないご意見をいただければ幸甚に存じます。

